

活動事例紹介

大内佐野集落協定〔丸森町〕

地区概要	取組面積：29.6ha（田28.6ha、畑1.0ha） 資源量：水路6.8km 農道2.0km ため池 一箇所
令和2年度交付金	農地維持支払交付金 878千円 資源向上支払（共同活動）交付金 524千円 資源向上支払（施設の長寿命化）交付金 -千円
地域の概要	宮城県最南端の丸森町、その南部に当地区があります。阿武隈山地の山々に囲まれた中山間地域で稲作中心の農業が営まれています。地区内の大半の水田は2006年に基盤整備され、中山間地域にあっては比較的条件に恵まれています。2014年に集落営農組織（法人）が設立され、そこで集落の殆どの農地を集積し営農が行われています。
取組みの概要	2014年度から多面的機能支払交付金制度の取組みを始めました。具体的活動として、水路の土砂払いや圃場周辺の草刈り、農道への砂利敷き、鳥獣被害防止のための電気柵の点検・補修や水利施設の簡易な補修等の取組みを行っています。 また、農村環境改善のための花壇整備や植栽、管理に取組んでいます。 さらに、一昨年台風19号で被災した農用地等の復旧※（堆積した土砂や流木の撤去、壊れた水路の修復等）も多面的機能支払交付金を充てて取り組みました。 ※ <u>激甚災害被災地域指定の特例措置申請区域</u>
取組みによる効果	この間の取り組みにより、農地はもとより集落の景観を含めた環境が着実に改善されてきています。活動は決して楽なものではありませんが、取り組みを通じて地域住民の連帯感が高まっていると感じます。 また、地域環境を自分たちで守っているという誇りのようなものが参加者に生まれています。そのことが、一昨年台風19号で被災した農地約3haを自力復旧させるエネルギーになりました。そして、多面的機能支払交付金制度があったことで、この取組みを円滑に進めることが出来たものと制度を高く評価しているところです。
今後の課題	比較的若い世代の活動への参加が増えてきていますが、高齢化でこれまでと同様の活動が無理な地域住民も少なくありません。活動に参加できる地域内の方々が増えることが課題です。将来にわたり、いかに農地や地域環境を守っていくのが課題です。 作業負担軽減のための機械導入も課題解決の一方策と考え取り組む予定です。（中山間地域等直接支払制度を活用）
その他	当地域から離れて暮らしている方で活動に参加してくれる人が今もいます。また、地域おこし協力隊で派遣されている方々も活動に参加してもらっています。大変ありがたいことです。



水路取水口の土砂払い



農地周辺の草刈りの様子



電気柵の点検・補修



台風被害の農地・水路の復旧

※激甚災害被災地域指定の特例措置申請区域